

## 中学生の読解力低調、中3教科書理解できず25%、社会生活に支障（読売新聞9月23日朝刊）

開倫塾

塾長 林明夫

1. 読売新聞の2017年9月23日（土）朝刊によれば、国立情報学研究所の初調査の結果、新聞や教科書を読み取る基礎的な読解力を身に付けられないまま中学校を卒業する生徒が25%に上ることです。
2. 「読解力が低く教科書が読めないと、自力で新しい知識を得ることができない。運転免許など資格も取得できず、社会生活に支障が出る」との、研究チームの新井紀子教授のコメントも紹介されています。
3. 「自己学習能力の育成」という教育目標達成のため、開倫塾では、自分から進んで学ぶ力、つまり「主体的に学ぶ力」を身に付けることを推進。「学び方を学ぶ能力」育成のために、「学習の3段階理論」の活用を奨励すると同時に、「辞書」「新聞」「読書」を活用して「読解力」を身に付けることを、全塾生にお願いしています。
4. 目の前にある教科書や定期試験問題、入学試験問題を読み解くことができる能力、「読解力」なくして、「学校成績向上」なし、「第一希望校合格」なしと断言できるからです。
5. 読解力を身に付けるには、次のような、コツコツとした地道な努力以外ありません。
  - (1) 英語も含め、読んでいて意味がわからないことばに出会ったら「気持ちが悪い」と考えて、「辞書」を用いて、ことばの意味を調べること。
    - ①辞書で調べたことは意味調べノートやカードに書き写し、その場で覚えること。
    - ②意味調べノートやカードは、毎日、1ページ目、1枚目から読み返し、すべて正確に覚えること。
    - ③1日10回、辞書でことばの意味を調べる。1年で3650回、3年で1万回、辞書を用いてことばの意味を調べ、すべて身に付けること。<「ことばは力」、「語彙の多さは力」です>
  - (2) 新聞を毎日、1面からなめるように読み、
    - ①「自分で考える力」を身に付けること。
    - ②「批判的思考（クリティカルシンキング）能力」を身に付けること。
    - ③気になる記事は「スクラップブック」に保存し、繰り返し読み直すこと。
  - (3) 毎日、少しずつでも、腰を落ち着けてじっくり本を読む。読書に励む。

- ①大切な本は、6回、7回と何回も読み、著者との時空を超えた対話を繰り返す。
- ②読書の習慣により、深く考える力、自分自身を振り返る力（省察力）、「思慮深さ」を身に着けることができます。
- ③大切な文章や語句は「書き抜き読書ノート」に書き写し、折に触れ、繰り返し読み直すことで、思索を深める。

6. (1) 学校成績や偏差値を、短期間の間に急激に上昇させたければ、

- ①教科の学習方法を、「学習の3段階理論」を参考に大幅に変更すると同時に、
- ②「辞書、新聞、読書」の3つを最大限活用して、「読解力」を身に着けること。

(2) ① 1日に30分以上辞書で意味調べをする

② 1日に30分以上新聞を読む

③ 1日に30分以上読書に励む

(3) 受験直前、受験当日まで、

①辞書

②新聞

③読書のための本は手放さない。受験当日も30分以上、調べたり読み込んだりする。

7. (1) 教科の学習をいくら行っても、読解力が不足しては、学校成績や偏差値は急上昇せず、学校成績向上と第一希望校合格は実現しません。

(2) これは、病気になった場合に、いくら手術や投薬を受けても、

①食べ物に気を付け、

②適度な運動を行い、

③リハビリに励まなければ、回復は不可能であるのと同じです。

食べ物、適度の運動、リハビリが、「辞書、新聞、読書」を活用して「読解力」を身に着けることに当たります。

(3) これは、スポーツをする場合に、試合ばかりしていて、基礎的な練習や体力作りに励まなければ、いつまでたっても試合には勝てないのと同じです。

基礎的な練習や体力作りが、「辞書、新聞、読書」を活用して「読解力」を身に着けることに当たります。

8. (1) 来週から10月、本格的な秋を迎えます。読書の秋です。大いに読書に励みましょう。

10月には新聞週間があります。大いに新聞に慣れ親しみましょう。

(2) 10月22日には衆議院議員の総選挙があり、また、北朝鮮の情勢も見逃せません。

(3) 新聞をしっかり読み、世の中の動きを認識したうえで、自分の考えを持ちましょう。

2017年9月25日(月)5時06分

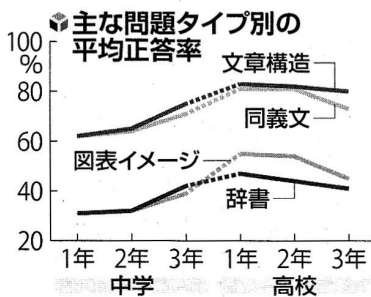
# 中学生の読解力 低調

新聞や教科書などを読み取る基礎的な読解力を身に付けられないまま中学を卒業する生徒が25%にのぼることが、国立情報学研究所（東京都）・新井紀子教授らの研究チームの初調査で明らかになった。社会生活を送るのに最低限必要な読解力の不足が懸念される状況だ。

## 研究チーム初調査

調査は2016年4月～17年7月、全国の小6～社会人を対象に、独自の読解力テストを実施。公立・私立中高生2万1000人の結果を中心に分析した。

主語や目的語など文章の構造が理解できているかを問うタイプの設問群で、中学1年の正答率は62%、中学2年が65%、中学3年が75%となった。中学3年の4人に1人（25%）が、教科書レベルの基礎的な読解力を身に付けられないまま義務教育を終えていることにな



## 中3「教科書理解できない」25%

高校のデータは進学校の生徒が比較的多かったため、高校1年が83%と中3より大幅に上がるが、高校2年が82%、高校3年が80%とその後の上昇はみられなかった。新井教授は「高校で読解力の向上が見られないことから、中学3年までに読解力を養うことが急務となりそうだと述べている。研究チームは、事実について書かれている短文を正しく理解する能力を測定するため、新聞や教科書、事典などの文章をもとに1000問以上のテスト問題を作成。文章構造理解を問うタイプのほかにも、文章から図表がイメージできることや、文の一部を書き換え、変更前後の文章が同義文かどうかを問うなど、計6タイプの設問群とした。

文章から図表をイメージする問題など二つのタイプでは、中3の平均正答率が3割台にとどまった。新井教授は「読解力が低く教科書が読めないと、自力で新しい知識を得ることができない。運転免許など資格も取得できず、社会生活に支障が生じる」と指摘した。